

講演会—いじめを考える—開催

新しい親子のキズナを 根絶への手がかり示唆

大河内清輝君事件以降も、いじめを苦にした子どもの自殺が続いています。学校のいじめ問題は深刻になる一方です。しかも、いじめの相手が潜在化、陰湿化していると言われます。今年上半期に警察の扱ったいじめ事件は、この十年間で最多のペースといえます。

青少年育成連盟では「いじめ」の問題を当面する重要な課題であると考え、九月一日、中原市民館で「いじめを考える」をテーマに青少年育成講演会を開催いたしました。

講師に「いじめ」や「子どもの人権」の問題等で幅広く活躍されている弁護士吉峰康博氏を迎え、一時間半にわたるいじめについてお話をうかがいました。

当日は夜分にもかかわらず、育成連盟指導者やPTAの方々三百余名が参加し講演会を盛況裡に終了しました。

さて、講演会では、開会のことばに続いて、佐藤博康青少年育成連盟会長より川崎市では「いじめをしない・させない・みのがさない」を合言葉に、学校・家庭・地域でいじめを根絶するための運動を進めています。その環境づくりや運動を更に推進していただきたいと挨拶がありました。

講演では、「いじめを考える」家庭と地域の役割」と題して、全国で統発するいじめ事件の一つを具体的に検証していただき、その



の中でいじめは人権を侵害する非人間的行為であること、いじめ根絶にむけて私たちがどのように知恵を出し合い、どのようにかわればよいお話をいただきました。また、親と子の現代的「絆」のあり方についても人権の視点から、「子どもの権利条約」とりわけ「子どもの意見表明権」から子

どもを対等なパートナーとして考えるという示唆に富んだお話がありました。

参加者にとって当日の講演は、「いじめ」についての関心を深め更に明日の方途をさぐるよびがかりになったと思います。

講演会終了後、皆様にご覧いただいたアンケート「今後、講演会を行って欲しいテーマは何か」の結果は次の通りです。次回講演会の参考にさせていただきます。

- | | |
|------------------------------|------------|
| ハアンケート結果 | エ 地域の活動に |
| ア 今日、社会的課題に | 関するもの (32) |
| イ 子どもの成長に | 関するもの (31) |
| ウ 家庭教育に | 関するもの (4) |
| オ 学校教育に | 関するもの (32) |
| カ その他(福祉、中学の給食、親・教師の役割、同テーマ) | 関するもの (31) |



恒例の美化 活動に表彰

ガールスカウト32・65団

毎年六月に行われている多摩川沿いの清掃、秋の市内統一美化活動では、新百合丘駅前広場や柿生駅周辺、黒川青少年野外活動センター、麻生市民館の周辺等ゴミ拾い等の日頃の活動が認められ麻生区から表彰されました。

もてなし更に厚く

11回ボーイスカウトイボルチモア訪問

ボーイスカウト川崎地区とボルチモア地区が交流を始めて、昨年は盛大に10周年を迎え、今年も11回目として川崎からボ市へ訪問し

ファミリー派遣も実施し旧友との交流を深めた。

現地では、交流キャンプ、ラフティング、チュービング、バドミントンなどが用意されており、前回は上回るボ市側の配慮に感謝したい。

十年一昔と言うが、昔の友は今も

川崎海洋少年団では、新たな発展を図るため、またひとつの節目として、発団30周年記念式典を開催いたします。

昭和四〇年経済成長のなか、川崎市立立前小学校講堂で発足し、夏季に行われます全国大会



発団30周年記念式典を挙

川崎海洋少年団

平成7年11月26日(日)
15時より
エポック中原大会議室



平成7年度川崎市子ども会連盟主催の「川崎市子ども会野球大会」が今年も幕を開けました。

連日の猛暑の中で練習で川崎球場に集合した選手は、皆員外に日焼けした、汗ばった選手ばかりです。さて今年の大会は、小学生が44回、中学生が35回を迎えました。今年から中学生が1チーム増えて小・中学生とも8チームの参加となりました。

開会式では、連盟長の挨拶、来

今年新しく川崎球場まで来れた選手は、皆さん来年に向けて練習頑張ってください。そしてこの大会にあたりおおくの人の協力のおかげでプレーができたことに感謝の気持ちをもってください。

子ども会野球大会

池上新町5-4パークセンター
(川崎) (幸) 新川崎
中学生の部
久米大空6-0掘ヶ谷
(高津) (高津)



あーあ、どろ船の ように沈んだよー

高津子どもフェア(第5回) 高津区文化広報委員会

今年で五回目となった、高津区子どもフェア、「かちかち山どろ船」競技会は、子ども会・区役所主催で八月二十七日(日)、多摩川新二子橋下で開催された。

暑さのまじしいこの夏、川の水も気持ちよく、船で競技するよりは、泳いだ方がいいのではとの期待もあった。

例年だと三十艇ほどの参加がありますが、今年は二六日から全選手が、八ヶ岳研修会に参加しているために、二艇と少ないけれど、作品を見て今日は楽しいぞという予感がする。

段ボールで、幅一m、長さ二mの舟を作り、ペンキで色塗された作品は、競技が始まる前に、出来映えの審査を行い、安全のため消

防署のレスキュー隊や、子ども会役員の見守る中、いよいよ競技となった。

五十mのコースで行なわれ、スタート地点から思うようにいかない舟や、途中で沈み泳いで、こっちの方が気持ちいいと遊んでいる子ども、快調にゴールに着いた舟は数隻であった。今年の舟はどろで作った舟より早く沈んだものが多かったのでは?

見ている人達は、暑さを忘れて子ども達に声援を送っていた。

競技も終り、出来映え賞、タイムレース賞の表彰を受け、河原に作られたいけすのうなぎや、どじょうのつかみ取りをし、今日一日遊んだ多摩川のゴミを拾い、夏休み最後の日曜日を終りました。

“流人の島”は暑かった 海鮮少年団の夏キャンプ

はるばる東京から船で七時間、八年ぶり四回目となる伊豆七島最大の島、八丈島で八月二日から六日までキャンプを行った。

二日の夜十時に出勤、シーズン真っ盛りということで、乗船客はたくさんいたが、そこは慣れたも朝だというのに突き刺さる日差しの中で、さっそくテント設置開始。今回は、ドーム型テントを購入し、事前に練習をさせたせいかスムーズに立てることができた。

キャンプの活動は、早起きから始まる。朝涼しいときに魚釣りをしたが、誰も目指す獲物は釣れなかった。(朝)飯のおかずが一品減った。

朝だというのに突き刺さる日差しの中で、さっそくテント設置開始。今回は、ドーム型テントを購入し、事前に練習をさせたせいかスムーズに立てることができた。

キャンプの活動は、早起きから始まる。朝涼しいときに魚釣りをしたが、誰も目指す獲物は釣れなかった。(朝)飯のおかずが一品減った。

研修の楽しさに感動 リーダー一同盛上る

リーダー一同盛上る

研修第一回目「テント設置・撤営と野外料理」は六月十八日新緑が美しい黒川野外活動センターで県支部のトレーナーの指導のもとに、参加リーダー21名で実施されました。始めは少々緊張気味だった新米リーダーも、トレーナーの巧みで楽しい指導に、パトロール毎に和気あいあい、チームワーク良くテント設置に励んでいました。

情報交換やソング練習で楽しい昼食の一時を過ぎ、午後はティンカンストープ、図形燃料づくり、そして楽しいおやつ作り。「リーダー研修ってこんなに

楽しくておいしいものだったの？」と感激しきりのリーダー達でした。

第二回目も県支部のトレーナーの指導のもとに楽しいキャンプにするためには36名という沢山のリーダーの参加を得て実施されました。いろいろなファイヤーの方法、スカウトOWNやスタンツのさまざまなアイデア、そしてソングと本場に盛り沢山のプログラムが楽しさと感動の中に繰り広げられました。

各々の団がキャンプをひかえた時期の研修でしたので、リーダー達の大きな財産となったのではないのでしょうか。

今後とも団のあり方、基本的な集會、セレモニー、入団式等の研修を計画しております。

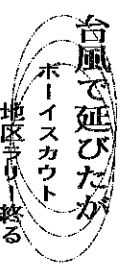


ゲームで世界一周
年少ラリー

常に研修を積んで、リーダーも楽しく成長していきたいものです。(大屋ヒサ子)

今年度の年少ラリーは、運動会形式ではなく、楽しいコミュニケーションゲームと、ガールスカウトらしいゲームを取り入れ、お友達を誘ったり、贈書をもったお友達にも呼びかけをして、皆で一揃にラリーを楽しもうということが大きな特徴です。スカウトらしいゲームは世界一周二十ヶ国めぐりで、パスポートを持参してパトロール毎に行動、各国毎に特徴のある服装をしたリーダー達から出された課題に挑戦していくのです。

「わたしはナイチンゲール」二月の砂漠」等々、興味シンシンドです。各国からの実行委員のリーダー達は非常に熱心に向何回も検討を重ね、準備に時間をかけ、スカウト



台風で延びたが
ボイススカウト
地区ラリーを終る

川崎全体のボイススカウト関係者2千人が集まって楽しく語り合おうというお祭り「地区ラリー」が、9月24日、住吉平和公園で今年も開催されました。

台風のため予定が1週間遅れたため参加者がちょっと少なめでしたが九百人の人々が集い、各団の準備したゲームを楽しんだり、役員たちの奉仕による出店を回った



今年度は「公園」がテーマ

川崎市教育委員会・川崎市青少年育成連盟主催による青少年指導者プログラム研修・県外交流研修が、九月九日から始まりました。

この研修は、青少年活動の活性化と充実を図るために、青少年の中心となるべき青少年団体のジュニアリーダー及びリーダーを志す中・高校生を対象として、青少年活動に必要な知識や技術の習得と、他都市ジュニアリーダーとの交流を通して、視野を広げ、リーダーとしての資質の向上を図ることをねらいとしています。

本年度の研修主題は、昨年度の「川崎をもっと知ろう」を継承して「公園を通して川崎の自然を知ろう」となりました。

この研修プログラムは九月九日を皮切りに十二月まで七日間にわたって行われます。研修内容として、公園探検、ネイチャーゲーム、八王子市ジュニアリーダーとの一泊二日の交流研修など多彩なプログラムが用意されています。

初日は挨拶、オリエンテーションに続いて、環境保全局公園緑地課の安田さんから「公園と自然」について講義がありました。

主な内容は公園緑地課の業務、公園緑地の効果や公園の種別、遊戯施設と遊びなど、次回の公園探検をする上でとても参考になったと思います。このあと班別活動に移り、次回探検する公園について具体的な話し合いがなされました。

この研修を通して得た人とのつながりと知識や技術は、自分自身の成長に大きな意義を持つことでしょう。



はるばる東京から船で七時間、八年ぶり四回目となる伊豆七島最大の島、八丈島で八月二日から六日までキャンプを行った。

二日の夜十時に出勤、シーズン真っ盛りということで、乗船客はたくさんいたが、そこは慣れたも朝だというのに突き刺さる日差しの中で、さっそくテント設置開始。今回は、ドーム型テントを購入し、事前に練習をさせたせいかスムーズに立てることができた。

キャンプの活動は、早起きから始まる。朝涼しいときに魚釣りをしたが、誰も目指す獲物は釣れなかった。(朝)飯のおかずが一品減った。